

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

「思いやりの心」と「共生」

各地から梅開花の便りが聞かれます。「三寒四温」を繰り返しながら春の到来を告げるころとなりました。いよいよ週明けの 7 日(火)から、学年末考査が行われます。28 年度最後の定期テストです。これまでのテストの反省を活かし、計画的に学習をしていることと思います。『後悔先に立たず』という言葉があるように、「あきらめずにやりぬく気持ち」を今こそ発揮してください。皆さんの奮起を期待しています。

さて、3 月 1 日(水)に第 16 回卒業式を行いました。6 年間の思い出を胸に 16 期生 109 名が巣立っていきました。緊張した面持ちながら、壇上で卒業証書を受け取る卒業生の目を見ているとこれから頑張るぞという決意が感じられ頼もしく思いました。

以下に、私が卒業生に話をした「式辞」を掲載(一部省略)しました。ぜひお読みください。

式 辞

日一日と暖かさが増し、校庭の桜の木々も新しい芽をつけています。春の息吹を感じるこの佳き日に、大阪学芸中等教育学校を巣立たれる 16 期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

ただいま、一人一人の生徒に卒業証書を授与いたしました。本日卒業証書を手にする事ができたのは、皆さんの努力はもちろんですが、ご家族や多くの人たちの力添えと愛情があったことを忘れないでください。これらの方々に感謝の気持ちを自分の言葉で伝えて欲しいと思います。

今、6 年間の様々な思い出が皆さんの心の中をめぐっていることでしょうか。本校の 16 期生として、学習はもちろん、諸行事やクラブ活動においてよく努力しました。私もいろいろな場面で皆さんの活躍を眼にして、皆さんが持つ、素晴らしい能力を実感しました。とりわけ、初めて中等祭として連日開催した文化祭や体育祭は、6 年生が中心となり、下級生と力を合わせ全員で取り組んだ成果が表れ、若いエネルギーが満ち溢れた素晴らしいものでした。

また、6 年間の充実した日々の中で、共に学び、共に過ごしたクラスメートとの友情を、生涯の宝としていつまでも保ち続けて欲しいと思います。

今日の卒業式は、人生の大きな節目であり、新しいスタートラインに立つ、記念すべき日です。今日の輝かしい門出に際し、はなむけとして、2 つの話をしたいと思います。

想像を絶する甚大な被害をもたらした東日本大震災からまもなく 6 年が経過します。

平成 23 年 3 月 11 日。皆さんは、本校への入学を心待ちにしながら、もうすぐ小学校の卒業式を迎えるという時期だったと思います。その頃、テレビで流れていた「ここはだれにもみえないけど ころづかいは見える」という CM を覚えていますか。

< ↓ 裏へ続く >

この詩は、詩人宮澤章二さんの「行為の意味、青春前期の君たちに」という詩の一節です。震災後、繰り返し放送され、多くの人的心里に残り、優しい心、思いやりの心と呼び覚ましました。その詩の全文を紹介します。

『あなたの「こころ」はどんな形ですかと　ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない　けれど　ほんとうに見えないのだろうか

確かに「こころ」はだれにも見えない　けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは　人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の「思い」は見えない　けれど「思いやり」はだれにでも見える
それも　人に対する積極的な行為だから

あたたかい心が　あたたかい行為になり　やさしい思いが　やさしい行為になるとき
「こころ」も「思い」も初めて美しく生きる　それは　人が人として生きることだ』

この詩は、思いやりの気持ちを持っていても、なかなか行動に移すことは難しいけれど、その美しい気持ちは、行為になってこそ意味があるというメッセージを送っています。

現代社会は、あらゆる分野で急激な進歩・発展を成し遂げています。特に、近年のスマートフォン等の急速な普及に伴い、高い利便性を得る一方、SNSの利用などを通じて、ネット依存やネット被害のトラブルなど様々な問題が生じています。文明が高度になり、情報があふれる社会では、いっそう「豊かな人間性」が大切になってきます。

まず、自分を大切にす人、そして、他人に対し思いやりの心を持ち行動できる人になって欲しいと思います。

今、世界は国際化が進んでいます。人や物や文化が、価値観の異なる国々の間を大きく移動しています。そのためお互いの理解不足から来るトラブルも起こりがちです。

1992年9月、宇宙飛行士である毛利 衛さんは、スペースシャトル・エンデバー号に日本人科学者として初めて搭乗し多くの宇宙実験を行いました。8日間の飛行後に次のような感想を述べています。

「宇宙から見る地球はとても美しい、いくら見ても飽きない心の故郷です」「そこには国境などないのです」と言われたのです。宇宙に青く燃える、かけがえのない地球の美しさと国を越えた人としてのあり方を感動的に伝えていきます。宇宙から地球を見た毛利さんには、いがみ合ったり、戦ったりしている人間は愚かに思えたことでしょう。

これからの時代は、世界の人々が力を合わせ、地球を大切に、人の心を大切にしながら、人間が共に生きていかなければなりません。

共に生きると書く『共生』という言葉は、高齢化、国際化が進むこれからの時代の重要なキーワードになると思います。『共生』を実現する第1歩は、自分自身をかけがえのない大切な存在なのだということをしっかり認識することです。そして、お互いの違いや良さを認め合い、支えあう気持ちが大切です。

皆さん一人一人が、この地球上でただ一人のかけがえのない存在であり、自分と同じように相手を尊重し、思いやりの心を持ち、共に生きていこうとする姿勢を持ち続けて欲しいと思います。

では、卒業生の皆さん。これからも十分健康に留意され、ますます活躍されるよう心からお祈りして式辞といたします。
